

第1回香南市行政改革推進委員会 会議録

開催日時	令和7年5月22日（木）13時30分～15時00分
開催場所	香南市役所本庁舎3階会議室
出席委員	北委員、清藤委員、楠川委員、霜田委員、末延委員、濱崎委員、久武委員、安岡委員、吉村委員
事務局	濱田市長、別府副市長、総務課長、企画財政課長、情報政策課長、総務課、企画財政課

1 開会

2 市長挨拶

香南市は、来年の3月1日で合併して丸20年が経過する。5つの町村が合併し、それぞれの魅力を生かしながら、そして、その中で本来なら、合併することによって様々な取組ができたことがあるのではないかと感じているが、そのところがなかなかできなかった。年間収支の赤字が2年連続続いており、今後も赤字体制が続いていくことが想定されている。

香南市が20年を迎えこれから持続可能なまちとして自立していく、そのために我々は今一度、行政全般にわたって立ち止まって見直す機会ではないかと捉え、今回、大きな大きな任を務めるに当たり、委員の皆様は御協力、御尽力を賜らなければならない。そして、この1年間がある意味、香南市の今後20年、30年にとって本当に大切な1年になるのではないかと、私自身も大きな覚悟を持って臨んでいかなければならない。委員の皆様は、それぞれの地域を代表し、また、様々な立場を代表して、これまでの経験をこの香南市のために賜りたく心よりお願いを申し上げる。

3 委員の紹介

4 委員会の設置及び運営について

5 会長及び副会長の選出について

香南市行政改革推進委員会設置条例第5条第1項の規定に基づき、委員の互選により楠川委員を会長に、小笠原委員を副会長に選任した。

6 議事

（1）行政改革大綱の策定について

事務局から、市の財政状況、スケジュール、行政改革大綱案等について説明した。

【質疑（意見）】

◆ 委員

以前、学校再編（香南市学校等の規模適正化等）の会議にも参加させていただいたが、その後、学校再編案はどうなったのか。すんなりといかないことは重々分かっているが、差し支えない範囲で教えていただきたい。

◆ 市長

令和2年（3月）に答申が出されたが、コロナ禍で一旦止まった状態で、その後、答申に対して基本方針を策定したのが令和5年10月。そして、基本方針に沿った形の具体的な再編案を、本来なら今年の1月から示していく計画としていたが、昨年8月8日に津波注意報と南海トラフ地震臨時情報が発令され、そこで、沿岸部の赤岡保育所と吉川みどり保育所の対応について、教育委員会と現場の保育士、また、教育委員会と市長部局とが協議し、その結果、両保育所の園児を津波浸水エリア外の野市東保育所と野市東幼稚園で受け入れるという提案をしたが、実際4月からの入園に際して、10月には方向性を決めないといけないう中で、保護者の方、また、子どもたちの希望を受けるといった短い期間の中で、市民の皆様に混乱と様々な思いを与えた。そういったことがあり、今年度は赤岡保育所と吉川みどり保育所はこれまでどおり開設するとともに、野市東保育所と野市東幼稚園を野市東こども園として統合し、そこに希望があれば入園できる形とした。

それと同時に、今年度から、香南市の吉川海岸、赤岡海岸、岸本海岸がこれまで県管理だった堤防を国の力で強靱化をしていくことが正式に決まった。その中で、今年度から事前復興まちづくり基本計画を策定していく、そういうものを個々に進めていくのではなく、そういった状況を併せて地域の皆様と一緒に考えていくということで、再編案を示すタイミングは今ではないと判断した。

なお、教育委員会では今年度、さらに幅の広いアンケートを実施し、地域の方々、そして子どもたちがどう思っているのか、どういうことを望まれているのかということ踏まえた形で、その方向性というものを検討し進めていく。規模適正化自体を進めないということではなく、進める段階において、その方法を少し変えたというところが現状である。

◆ 委員

そういえば、新聞とかで目を通したと思い出しながら拝聴させていただいた。当時、関わっていたときに印象に残ったのが、やはり旧町の思いが強かった。本来であれば、赤岡、吉川は津波の危険が高い、特に保育所は避難しなくても安全が確保できていないと大変。それから中学校の再編の話が出たときに、赤岡と吉川の子どもたちが別の学校に行く時に海岸線を通って別の学校に行く、そういう発想からなかなか抜け出せなかったということを、今思えば反省している。あれから情勢も変わり、今、話を聞いて仕切り直したようなところもあり、ある意味、安心した。当時は、旧町に遠慮して会議でも発言していたようなところもあったので、やはり子どもの命を守ることを最優先して、その上で地域の衰退にもならないようなことをみんなで知恵を出さないといけない。

◆ 委員

この計画を策定するときに、南海トラフ地震、それから津波の被害の想定額も計算しているのか。それに伴って、復興に必要な金額もシミュレーションできると思うが、香南市としてはどのようにシミュレーションしているのか。この計画を策定する上では、必要な金額ではないか。

◆ 事務局

防災対策課に確認して、お示しをさせていただく。

◆ 委員

復旧に必要な、例えば非常に大事な基本のインフラの部分であるとか、そこについても過去のほかの県の事例とかを見て、ある程度試算できるのであれば試算して、この計画の中には考慮していかないといけない部分ではないか。

次に、現在、香南市の議員の人数、それに必要な報酬、これはこの歳出の中の人件費に含まれているのか。

◆ 事務局

議員の報酬は、人件費に含まれている。

◆ 委員

議員の人数は。議員の人件費は幾らの金額になるのか。歳出の人件費の占める割合が何%ぐらいか。

◆ 事務局

議員の定数は19名。人件費は個別の資料を持っていないため、今は答えられない。割合は調べて答える。

◆ 委員

例えば、改革を進めていく中で本当に必要な人員は見直していく、それからデジタル化にも取り組む、いろいろ取り組むが、その中に、議員の数も人口が減っているのでそこは見直しが必要だ絶対必要な部分だと思う。それから、最近の香南市がこういった会を開催しているが、その中には、非常に若い世代の人たちを登用していたり、参加していただいている。この会についても、市民の意見を聞くということであれば、やはり若い世代の意見を尊重するべきだと思う。

◆ 委員

公共施設等の維持管理費が年間 33 億円ほど要する説明だったが、不要な物は早いところ売却して、そうして思い切ったことをやらないとしまいが見つからないと思う。依存財源が 67%、自主財源が 32%で、歳出を減らさないことにはどうにもならない。

学校の統廃合の問題について、私も委員を 2 年間やった。答申も出したが、子どもを津波から守るためにどうしないといけないのか、そんなことを最優先に考えて自分の意見とした。

説明にあったように課題が見えているので、これを一つ一つ検討しながら進めていくべきである。

◆ 委員

スケジュールにあるように、市民への説明、ここが一番しんどいところ。決めた以上は、不退転の決意で少々の反対があっても進めていくということにしないと、本当にいけない。職員も痛い思いをするが、市民の方も当然、市民サービスの低下ということが避けられない。そこはかなり強い決意でいかないと、しまいが見つからないと思う。

それともう一点、11 ページの次世代に負担を先送りしないということについて、その中で消防団組織の再編ということが書かれているが、消防も県で一元化の話が進んでいる。水道も香川県は、確か一元化されていると思う。これぐらい、ほかの市町村でも人口が減って職員も減って困ってるので、その辺は県が音頭をとってやっていくようになる。さらにその先には、多分、高知県が一つとか、その先には四国州とか、そんなところまでいくと思うけど、そういうところを見越してある程度、不要な物は処分していくというようなことも必要になってくる。

◆ 委員

縮減しているところはある。下水の関係であれば、県下で香南市が最初の実組としてクリーンセンターを統合した。これは高知県初で、そういう新しい先進的な取組もしている。そういう良い面もあるので、是非市長のほうには、このタイミングで 20 年間誰も触らなかったところをやっていただきたい。10 ページ（財政状況の公表）の広報紙、ホームページ、成果や市民の共有というところを是非強く進めていただいて、香南市が健全な市になるように、まずは市民がそこを腹に落として、気持ちの入替えをしてもらいたい。

支所の機能の見直しということも 10 ページに書かれている。支所の在り方についても 3 年前に機構の変更ということで各支所に機能を持たせたことがあり、そのときには各地域を大事にする姿勢ということで受け入れられたが、3 年経過して何か無駄が非常に見えるのではないのか、意志決定一つにしても五つが集まって検討してまた持ち回って、それもロスが出てきているのではないかと、検証というところはまさにそのまま書いているので、こういうことから進めていただきたいし、市民にそういうことを腹に落としてもらえるような PR をしていただきたい。

◆ 委員

香南市の保幼小中連携については、必ず先駆的な取組ということで取り上げられる。私もカリキュラムを策定するところから関わっているが、その当時の全国では、保幼の連携と小中の連携はあったが、生まれてから義務教育が終わるまでというのは全国でも無かった。今でもなかなかできないことを香南市は全国に先駆けて取り組んで、最初は現場の先生方の戸惑いもあったと思うが、やっていく中でやはり浸透してきている。

ほかにも、今の話を聞いていて、いろいろな会議で香南市は、高知県の中でも先駆的に取り組んでいることがたくさんある。病後児保育に関わったこともかなり早かった。そういったすばらしい取組がある。いろいろなノウハウを多分この市役所は持っていると思うので、是非この会でも共有できれば、みんな同じ方向を向いて、いいアイデアがどんどん出てくるのではないかな。

(2) その他

特になし。

7 閉会